

世界の大学で、先輩はこんな授業を受けています！

～ 9 大学・派遣生レポートから選んだ「英語で学ぶ」～

学部留学の魅力は、英語「を」学ぶのではなく、英語「で」学ぶこと。でも実際、海外の大学ではどんな授業が待っているのでしょうか？このページでは、JSAF からアメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、フランスの 9 大学へ派遣された先輩たちの留学レポートから、特に印象的だった授業を 4 つのテーマでご紹介します。すべて、先輩たちが実際に履修した授業です。

テーマ1 その国・その土地でしか学べない授業

留学先の土地に根ざしたテーマは、海外の大学ならではの。日本の教室では決して味わえない学びです。

MAOR165 Tuakiri: Culture and Identity (マオリ文化)

カンタベリー大学(ニュージーランド)

ニュージーランドの歴史とマオリの人々について学ぶ授業。マオリ語で自分のルーツを紹介する動画課題「Pepeha」に挑戦し、ハカも教えてもらえます。

先輩の声 マオリ語での Pepeha(自己紹介)は自分の地元・ルーツをマオリ語で紹介するもので、マオリ語を少し学ぶことが出来て楽しかった。

Sustainable Global Wine Business (ワインビジネス)

ストラスブール大学(フランス)

ワインの製造から販売までを学ぶ 1 ヶ月の集中コース。アルザスのオーガニックワインのセラーを訪問してテイスティングし、そのセラーへのマーケティング戦略をグループで提案します。

先輩の声 教授の教え子の方が経営しているワイン畑とセラーに訪問し、テイスティングをさせてもらった。

BIO204 / MSCI270 生命科学・海洋学 (自然科学)

CSU モントレーベイ校(アメリカ・カリフォルニア州)

美しいモントレー湾に面したキャンパスならではの。生命科学の授業ではモントレー周辺の生態系や環境問題を、海洋学では海洋循環やプレート構造を学び、地域と現実社会に結びつけて理解できます。

先輩の声 文系出身で理系科目には苦手意識がありましたが、友人の助けもあり最後までついていくことができ、良い成績で修了できて大きな達成感を得られました。

テーマ2 日本ではなかなか出会えない分野

「こんな授業、日本の大学にあった？」——専攻の枠を飛び出して、新しい世界の扉を開いた先輩たちの授業です。

ASL101 Elementary American Sign Language I (アメリカ手話)

ソールズベリー大学(アメリカ・メリーランド州)

授業内では声を使っちゃいけないというルールユニークな授業。色、アルファベット、数字などの手話表現に加え、ろう文化への理解も深めます。

先輩の声 最初は混乱したが、だんだんと慣れていき、お気に入りのクラスになった。とても興味深く楽しい授業だった。

CJ2660 Criminology (犯罪学)

テネシー工科大学(アメリカ・テネシー州)

犯罪のタイプや犯罪心理を、実際のアメリカの事件や犯罪統計を使って分析します。

先輩の声 アメリカの事件を取り扱う回もありとても興味深かった。教授の研究室に行ってアメリカの犯罪について話したのは貴重な経験だった。

AVIA1903 Aviation History (航空史)

セントラルミズーリ大学(アメリカ・ミズーリ州)

航空プログラムが有名な UCM ならではの、航空の歴史と技術の進歩を学ぶ授業。

先輩の声 クイズが2週に1回のペースであり大変でしたが、日本では絶対に学べない分野に触れられました。

Economy of Happiness (幸福の経済学)

ストラスブール大学(フランス)

経済や人間関係、仕事と「幸福」の因果関係を学びます。世界幸福度ランキングの背景にある研究に触れられる授業。

先輩の声 実際に幸福がどのような影響を及ぼしているのか知ることができて興味深かった。

CADR200 Foundations of Conflict and Conflict Resolution (紛争解決学)

ソールズベリー大学(アメリカ・メリーランド州)

紛争がどのように起こり、どのように解決できるのかを学びます。多文化共生や国際協力に関心がある人にぴったり。

先輩の声 概念を学ぶことが多く難しかったけれど授業内容は興味深く、教授もとても親切にしてくださいって学びの深い授業でした。

テーマ3 教室を飛び出す、実践・体験型の授業

海外の大学の授業は「聞く」だけではありません。取材する、作る、提案する——行動しながら学ぶ授業がたくさんあります。

JOUR353 Photojournalism + 学生新聞「The Orion」(報道写真・ジャーナリズム) CSU チコ校(アメリカ・カリフォルニア州)

毎週、街に出て知らない人に声をかけ、写真を撮らせてもらう報道写真の授業。
学生新聞 The Orion では記事の取材・執筆にも挑戦でき、プロのジャーナリストの話も聞けます。

先輩の声 断られて落ち込むこともあったが、「これは仕事」と割り切って撮ることで最終的に A の成績をもらえた。

2029MKT Advertising & Integrated Marketing Communication (マーケティング) グリフィス大学(オーストラリア)

実在するスタートアップ企業に広告・マーケティング戦略を提案する授業。最終プレゼンには、
なんとその企業の CEO が見に来ます。

先輩の声 課題は本格的で、最終プレゼンは提案先企業の CEO が見に来ていた。

MCOM207 Introduction to Mass Media Technology (メディア制作) セントクラウド州立大学(アメリカ・ミネソタ州)

Adobe Premiere Pro などを使い、オリジナル映画の予告編、短編動画、ラジオ番組を実際に制作します。

先輩の声 すべて初めてのことですごく大変だったが、映像や音声という形に残るものになったので達成感があった。

ABUS350 International Agricultural Business Practices (貿易実務) CSU チコ校(アメリカ・カリフォルニア州)

グループで会社(または銀行)になりきり、実際の貿易書類を作成してメールでやり取りし、貿易を成功させる
プロジェクト型授業。

先輩の声 社会に出て貿易会社に入ったとしても使えるような力を付けることができました。

COMM2700 Communication / Human Relations (即興プレゼン) セントラルミズーリ大学(アメリカ・ミズーリ州)

毎授業 2 回、その場で発表されたお題について準備時間約 2 分で即興プレゼン。「自分」を語る力が鍛えられます。

先輩の声 日本では自分について語る機会が少なかったなので、自己表現と話し方の幅を広げられる良い機会でした。

テーマ 4 専攻をもっと深める・最先端を学ぶ

自分の専門分野を本場でさらに掘り下げるのも学部留学の王道。日本より一歩先の内容に挑戦した先輩もいます。

CS4680 Prompt Engineering (生成 AI)

カルポリ・ポモナ(アメリカ・カリフォルニア州)

AI への指示(プロンプト)の設計と、独自の AI プロダクト開発を学ぶ新設の授業。
人工知能や暗号・情報セキュリティなど、情報系専門科目を英語で本格的に履修できます。

先輩の声 新設の授業でしたが内容が考えられていて楽しく学べました。所属大学でも生成 AI を用いた開発は行ったことがありますが、今回はもっと細部まで考えることができました。

ABUS シリーズ(農業経済・経営) (アグリビジネス)

CSU チコ校(アメリカ・カリフォルニア州)

農業生産の経済学、農産物マーケティング、農業政策、農業金融まで、カリフォルニアの農業地帯で体系的に学べる専門科目群。USDA(米国農務省)のゲストスピーカー回も。

先輩の声 毎週の小テストでしっかり点数を取ることを目標に、最後まで継続して復習できました。

MGMT100 / MKTG100・201・204 経営学・マーケティング (ビジネス)

カンタベリー大学(ニュージーランド)

経営学の基礎からマーケティング戦略、消費者行動まで。レクチャー＋少人数チュートリアルので組み合わせで、理論を毎週のグループワークで実践しながら身につけます。

先輩の声 ワークショップは毎回異なる人と組むグループワークだったので、知らない人と話せたり、仲のいい友達ができたりしたのが楽しかったです。

ART2310 / 2330 Interior Design Studio I・II (インテリアデザイン)

セントラルミズーリ大学(アメリカ・ミズーリ州)

デザイン専攻の先輩が「日本のカリキュラムよりはるかにいい」と語った本格スタジオ授業。CAD での設計から、キッチンで実際に料理をしながら学ぶ回まで。

先輩の声 頑張った分ちゃんと先生も見てくれてしっかりしたフィードバックをもらえるので、授業そのものは受けていて楽しかったです。

先輩たちが口を揃えて言う、海外の授業の魅力

「日本の授業は知識を得るための授業、アメリカの授業は学ぶための授業という感じがした。教授は生徒の間違いに非常に寛容で、間違えても『いい視点だね』とその意見を否定しない。」

—— セントラルミズーリ大学派遣・神戸市外国語大学の先輩

「英語力そのものは評価に含まれず、伝えようと頑張ること、自分の意見を常に持つことで良い評価が得られた。ネイティブが有利になることなく公平な評価を受けられる、すごくいいシステムだと感じた。」

—— ストラスブール大学派遣・成城大学の先輩

「毎週課題があったり、extra point を取れる課題があったりしたので、学期全体を通して学んでいるという感覚が強く、課題の出来具合を見て学期途中で軌道修正できる点がとても良いと思いました。」

—— CSU チコ校派遣・成蹊大学の先輩

ここで紹介した授業は、先輩たちが履修した科目のほんの一部です。各大学の履修科目紹介ページでは、すべての科目を先輩のリアルな感想とともに紹介しています。「自分ならどんな授業を取ろうかな？」——そんな想像が膨らんだら、ぜひ JSAF の無料留学カウンセリングへ。あなたの専攻や興味に合わせて、ぴったりの大学をご提案します。

※ 本ページの内容は JSAF 派遣生の留学レポートに基づいています。開講科目・授業内容は年度により変わる場合があります。